

明治大学資源利用史研究クラスター研究成果公開シンポジウム (科学研究費挑戦的萌芽研究成果報告会)

縄文の塩Ⅱ

—製塩土器の型式と技術—



◆2018年10月14日(日) ◆明治大学駿河台キャンパス

グローバルフロント1F グローバルホール◆先着100名

◆9時30分受付開始 17:00終了 ◆参加費・無料

◆配布資料有 ◆一般参加も可・予約受付なし

◆連絡先 明治大学資源利用史研究クラスター03-3296-1873

写真提供 土浦市教育委員会

縄文の塩Ⅱ

—製塩土器の型式と技術—

縄文時代に出現する製塩土器とはいったいどのような技術的背景をもって登場したのでしょうか。これまでは製塩土器のみに特化した型式学的な研究が進められてきましたが、土器型式そのものを成り立たせている土器製作技術の体系の中での位置づけはほとんど行われてきませんでした。今回のシンポジウムでは現在推進中の関東地方における土器型式と土器製作技術の関係から製塩土器を捉え直し、さらに東海地方の晩期製塩の可能性についても議論し製塩土器の特性について検討したいと思います。

日 程

受付開始 9:30

発表1 (10:00~10:30) 製塩研究における問題点の整理と今日的課題 (阿部芳郎)

発表2 (10:30~11:00) 関東・東海地方における中~晩期貝塚 (樋泉岳二)

発表3 (11:00~11:30) 東北地方の製塩研究の現状と課題 (高橋 満)

発表4 (11:30~12:00) 東海地方の貝塚と縄文製塩研究の現状と課題 (川添和暁)

昼休み (12:00~13:00)

発表5 (13:00~13:30) 製塩土器の出現過程 (阿部芳郎)

発表6 (13:30~14:00) 霞ヶ浦の製塩土器編年 (下坂田貝塚) (亀井 翼)

発表7 (14:00~14:30) 霞ヶ浦の製塩土器編年 (神立平遺跡) (須賀博子)

発表8 (14:30~15:00) 奥東京湾の編年 (宮内慶介・吉岡卓真)

休憩 (15:00~15:20)

討論 (15:20~16:30)